

モニタリング 2024（令和 6）年次報告の概要

Ⅱ 資産の保護・管理

○Ⅱ－1 現状変更等件数及び内容

- ・史跡の現状変更許可申請書の提出件数 20 件

史跡内における現状変更は、文化財保護法の手続きに基づいて適正に実施されており、構成資産の顕著な普遍的価値や属性に影響を与える変更は行われていない。

- ・通知書・届出書の提出件数 1 件

陵墓における営繕工事や発掘調査は、宮内庁の陵墓管理委員会による審議や文化財保護法の手続きに基づいて適正に実施されており、構成資産の顕著な普遍的価値や属性に影響を与える変更は行われていない。

○Ⅱ－2 き損件数及び内容

- ・資産のき損件数 0 件

○Ⅱ－3 遺構の状況

- ・墳丘の土砂流出による遺構変化 3 件
- ・墳丘裾の洗掘による遺構変化 0 件
- ・樹木の立ち枯れによる遺構変化 0 件
- ・その他の要因による遺構変化 0 件

土砂流出が認められる資産については、整備基本計画策定後、順次保護措置の着手時期を検討する。変化の認められないその他の資産も含め、今後も経過を観察していく。

- ・定点観測写真撮影による変化の把握

遺構への影響が懸念される資産はあるものの、いずれの資産においても価値を損ねるような変化は認められない。

○Ⅱ－4 調査研究にかかる報告書の発刊数

- ・構成資産にかかる調査の報告や研究成果を記載した報告書、論文等の発刊数 34 件

資産及び資産周辺埋蔵文化財包蔵地の発掘調査成果報告書、シンポジウム・講座資料、研究論文等が多数刊行された。

Ⅲ 開発の圧力

○Ⅲ－1 資産周辺の開発の申請

- ・緩衝地帯範囲での各種法令に基づく申請許可件数・内容

（建築基準法による確認、景観地区における認定、屋外広告物法による許可）

申請件数は微増、微減にとどまり、資産の価値を損なうような開発圧力の増加は認められない。

○Ⅲ－2 景観を阻害する要因の観察

高さに関する既存不適格物件の件数に変化はなく、景観に変化は生じていない。

○Ⅲ－3 景観の定点観測

墳丘越しの景観に変化は生じていない。古墳の間に新たに建築された建築物はなく、景観に変化は生じていない。履中天皇陵古墳～七観音古墳では大仙公園の整備工事により、古墳間の見通しが改善された。

IV環境の圧力

○IV－1 気候変動

百舌鳥エリアでは、降水量合計は昨年度より増加したが、資産への影響は認められない。
古市エリアでは、降水量合計は昨年度より増加し、1時間の最大降水量及び降水量 50 mm以上の日数は過去 10 年間で最も多かったが、資産への影響は認められない。

○IV－3 鳥獣の営巣活動等の状況

鳥獣の出没状況や営巣活動等による資産の遺構に対する負の影響は認められない。

V自然災害と危機管理

○V－1 風水害・地震・火災時の遺構の状況

風水害・地震・火災等による資産のき損はない。

VI来訪者への対応

○VI－1 講演会・見学会等の開催数

・講演会、シンポジウム、調査見学会等の開催数の把握 48 件
世界遺産登録 5 周年を記念して大規模なイベントやシンポジウムが開催されたことなどにより、講演会・見学会等の開催数が大幅に増加した。

○VI－2 ホームページの閲覧数

百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議ホームページ(日本語)の閲覧数は増加したが、その他のホームページの閲覧数は減少した。新聞記事の掲載件数は減少し、雑誌・書籍・テレビ等への写真使用申請件数は同程度であった。インターネット検索ボリューム数に関しては、「百舌鳥・古市古墳群」というキーワードでの検索数が増加した。

○VI－3 解説資料等の発行部数

恒常的に使用するガイドブックやパンフレット等について、多言語での発行を行った。全体としては昨年と比較して発行部数は大きく増加した。

○VI－4 ガイド実施件数及びガイド養成のための研修回数

ガイド団体によるガイドについて、全体としては実施件数、参加人数ともに増加した。

○VI－5 ガイダンス施設の整備状況

ガイダンス施設については、藤井寺市のアイセルシュラホールにおいてリニューアルオープンに向けての整備が進んだ。

○VI－6 案内板等設置計画の策定と実施

案内板等はほぼ設置が完了していたところ、羽曳野市と藤井寺市において説明板の更新が行われた。

○VI－7 便益施設の配置状況

すでに主要導線上にトイレを設置しているとともに、駐車場は十分な台数を確保しており、年間通じて問題は生じていない。

○VI－8 来訪者数

資産への来訪者数は減少し、施設への来訪者数は堺市及び羽曳野市では増加、藤井寺市では同程度であった。

※詳細は別冊の報告書を参照